平成31年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　足原小　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴ 教科に関する調査（国語，算数）

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

⑵ 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語，算数）の結果

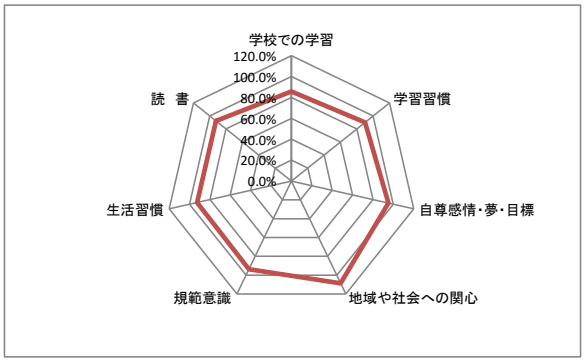
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的な平均正答率は、全国平均、本県平均、本市平均より下回っている。無回答率については、全国及び県のデータと比べると低い。領域によって、正答率のばらつきが大きく、課題がはっきりしている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「話す・聞く力」や「言語の知識・理解・技能」に関わる問題の平均正答率は、全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	「書く力」の平均正答率は、全国平均及び本県平均を下回っている。また、記述式の問題の平均正答率が全体的に全国及び本県のデータと比べると低い。	

算数	全体的な傾向や特徴など	全体的な平均正答率は、本市平均を上回っている。しかし、全国平均、本県平均より若干下回っている。無回答率については、全国及び県のデータと比べると低い。領域によって、正答率のばらつきが大きく、平均正答率が全国平均及び本県平均を大きく上回っているものもあれば、下回っているものもあり、課題がはっきりしている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「数と計算」の領域や「数学的な考え方」の観点の問題の平均正答率は、全国平均及び本県平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	「図形」や「量と測定」の領域の問題の平均正答率が全国平均及び本県平均を下回っている。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
「将来の夢や目標を持っている」と回答している児童が約90%いることから、多くの児童が自分の将来像を意識して生活していることが分かる。その上、「家で自分で計画を立てて勉強している」と全国平均及び本県平均を上回る約40%の児童が回答していることから、主体的に学習に取り組む意識を育成できていることが分かる。しかし、「話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりできていると思う」と回答している児童が60%弱と低い。対話的な学習による、考えの広がりや深まりを実感することができている児童が少ないことが課題として挙げられ、授業改善に取り組んでいくことが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

○ 学校の主題研究で「単元の始めや授業の導入で見通しをもたせる授業づくり」に取り組み、教師の授業力向上を図る。
○ 主題研究でのグループをトライアングル型のメンタリングチーム（ベテラン・ミドルリーダー・若年）で構成し、主体的かつ効果的に授業力向上に向けた研修に取り組むことができるようにする。そして、校内研修での関わりをきっかけに、同学年以外の教員とも互いに聞き合い、教え合える「松下村塾型職員室」の雰囲気を作る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○ 学級、学年通信や学級懇談会を通じて、本校の課題や取組を保護者に周知し、啓発を行う。
○ 家庭学習のスタンダード化を図る。家庭学習学年別設定時間を決め、宿題や自主学習ノートの活用も合わせて、取り組ませるようにする。